

第112期 中間期 事業のご報告

2023年4月1日～2023年9月30日



株主の皆さまへ

第112期(2024年3月期)中間期の事業の概況ならびに決算の内容についてご報告申し上げます。

■当社中間期の概要と当社グループの主な取り組み

当中期間の国際的な経済情勢を見ますと、各国での金融引き締め継続によりインフレの沈静化が進みつつある中で、ロシア・ウクライナ問題は長期化の様相を呈しており、依然として先行きの不透明な状況が続いています。

このような情勢の中で当社グループは、開発面では、ハイパワー・長寿命・高耐久の「40Vmaxリチウムイオンバッテリー」(XGT)シリーズの電動工具・園芸用機器をはじめとした充電製品のラインアップ拡充に注力しました。

生産面では、あらゆる製造工程内でムダ取りとコストダウン活動に努めるとともに、各工場での取り組みを他工場に横展開していくことで、グループ全体での効率向上に努めました。

営業面では、地域密着・顧客密着のサービス体制のレベルアップに注力し、世界各地のお客さまとの信頼関係のさらなる強化に努めるとともに、充電製品を軸とした市場の深耕・開拓に取り組みました。



取締役社長 後藤 宗利

取締役会長 後藤 昌彦

■中間期としては7期ぶりの減収も、為替の影響などにより2期ぶりの増益

当中期間の当社グループの連結業績は、各国での金融引き締めによる住宅需要の低迷および建設・建築市場への投資の抑制により販売が低調に推移し、売上収益は前年同期比5.5%減の369,667百万円となりました。利益面においては、為替の影響などにより原価率が改善したことから、営業利益は前年同期比44.9%増の31,760百万円(営業利益率8.6%)となりました。税引前四半期利益は前年同期比64.7%増の30,036百万円(税引前四半期利益率8.1%)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は87.9%増の20,816百万円(親会社の所有者に帰属する四半期利益率5.6%)となりました。

■カーボンニュートラルへの取り組み

頻発する風水害など気候変動が社会に及ぼす影響が甚大になる中で、気候変動問題の解決に向けて企業が果たすべき役割はより重要なものとなっており、当社グループは「脱炭素社会への貢献」を特に優先して取り組む重要課題(マテリアリティ)として位置付けて取り組みを強化しております。

そのため当社グループは現在、電動工具に次ぐ将来の事業の柱として、使用時に排ガスを出さない充電式の園芸用機器に注力し、脱炭素社会の実現に取り組んでいます。また、温室効果ガス(GHG)排出量の削減に向けて、自社の事業活動でのGHG排出量(Scope1、2)を2030年度までに2020年度比で50%削減し、2040年度までに実質ゼロとすること、サプライチェーン全体でのGHG排出量(Scope3)を2050年度までに実質ゼロとすることを目標として設定しています。2022年度において、Scope1、2のGHG排出量は前期比16.9%減の65,533t-CO₂となり、売上原単位では19.6%減の8.6t-CO₂/億円となりました。一方、Scope3のGHG排出量は販売台数および生産台数の減少に伴い、23.5%減の5,556,933t-CO₂となり、売上原単位では26%減の726.7t-CO₂/億円となりました。

GHG排出量の削減目標値の達成に向けて、引き続き再生可能エネルギーの活用および事業活動における省エネルギー化に取り組んでいきます。

■中間配当金は1株につき10円

当社は、年間配当金20円を下限とし、総還元性向35%以上とすることを利益配分の基本方針としています。当期の中間配当金につきましては、1株につき10円とさせていただきます。期末配当金につきましては、当期の業績が確定する来年4月下旬開催の取締役会において、上記の配当方針に従って配当額を決定し、株主総会において皆さまにご審議いただく予定でございます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも格別のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新製品ダイジェスト

20mm充電式ハンマドリル (HR010G)

「ワンハンド」史上、最強*1モデル登場



- *1 マキタ「ワンハンド」ハンマドリルシリーズにおいて、2023年2月現在、当社調べ。
- *2 本製品は水や粉じんによる影響が抑えられるように設計されていますが、水や粉じんによって故障しないことを保証するものではありません。
- *3 別販売品の無線連動集じん機、ワイヤレスユニット、集じんカップが必要です。
- *4 当社従来18V機比(17mmクラス)。

マキタ「ワンハンド」ハンマドリルシリーズにおいて、もっともハイパワーで高速穴あけを実現。さらに手に伝わる振動を低減し、連続穴あけ作業時の負荷を軽減しました。



HR010Gの動画がご覧になれます。

「ワンハンド」ならではの抜群の取り回し

40Vmaxリチウムイオンバッテリー搭載でありながら、18Vバッテリーモデルに相当する軽量ボディ。「ワンハンド」で収まるコンパクトなサイズのため、作業時の身体への負担を軽減します。



高速穴あけと低振動で快適な使用感を両立

40Vmaxバッテリーとハイパワーブラシレスモータ搭載により、軽量・コンパクトながら、ハイパワーを実現。穴あけスピードは従来機の約2.3倍*4に。また、防振ハンドル・防振グリップを搭載し、手に伝わる振動を低減しました。



集じんシステムでクリーンな作業

集じんシステム対応で、いつでもクリーンな状態で作業できます。捕集率の高いHEPAフィルタを採用しており、細かな塵も逃しません。集じんシステムはワンタッチで脱着可能、ダイヤルを回して簡単に塵を落とせます。



充電式保冷温庫 (CW004G)

両開きドア&2部屋モード切替*1可能



- *1 2部屋の設定温度差は最大30℃です。
- *2 IP表示をしている製品は水による影響を受けにくいよう設計されていますが、故障しないことを保証するものではありません。
- *3 庫内に医薬品や学術資料などを入れてください。温度管理が難しいものは保存できません。
- *4 飲料は自動販売機と同じ55℃、食品はUSDA(アメリカ合衆国農務省)の定める60℃での保温を推奨します。

場所を選ぶことなく自在に温める・冷やすことができる当社の充電式保冷温庫。シリーズ初となる両側から開閉可能なドアと2部屋モード搭載*1、さらに29Lのミドルサイズであることから、使いやすさがアップしています。

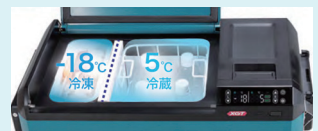
両側から開閉可能なドア

ドアは両側から開閉できるので、スペースの限られる車内での使用や作業現場での複数人による使用時などに役立ちます。また、取り外しも可能で、ドアや庫内の洗浄時に便利です。



2部屋を異なる温度*1で使える

仕切り板をセットすることで、自動でモードが切り替わり、2部屋で使用できるようになります。用途や好みに応じて、左右で異なる温度を設定できます。



その他の特長

-18℃から60℃まで温度設定を計17段階で変更*3、4。また、40Vmaxバッテリーに対応するほか、18Vバッテリー、シガーソケット(12V/24V)、AC100V家庭用電源にも対応。



新製品ダイジェスト

充電式高圧洗浄機 (MHW001G)

AC機を超える^{※1}洗浄力を実現



- ※1 当社比。
- ※2 本機に水滴や粉じんが付着した状態で使用することが可能です(当社、社内基準)。
- ※3 水や粉じんによって故障しないことを保証するものではありません。
- ※4 バッテリーを装着した場合は、本体側の保護等級に準じます。
- ※5 最大許容圧力はポンプが作り出せる最大の圧力値です。
- ※6 BL4050F×2本使用時。連続運転時間は無負荷時の参考値です。バッテリーの充電状態や作業条件により異なります。

40Vmaxリチウムイオンバッテリー搭載により高い吐出圧と大吐出水量を実現しました。農機や車、外構、タイルなどの掃除、黄砂の除去に最適です。



MHW001Gの動画がご覧になります。

AC機を超える^{※1}高い洗浄力

40Vmaxバッテリーにより、最大許容圧力11.5MPa^{※5}を実現、よりパワフルに作業をこなします。高い洗浄力で農機や車、外構、タイルなどの洗浄に活躍するほか、こびりついた黄砂の除去にもオススメです。



豊富な作業が可能

40Vmaxバッテリー×2本で、より長時間、より多くの作業を行えます。作業に応じて高圧、中圧、低圧の3つのモードで吐出圧を切替えられます。

中圧モードであれば、1回の充電で約30分間連続運転可能^{※6}



その他の便利な機能

伸縮ハンドルを伸ばせばらくらく移動することができ、ハンドルを収納すれば保管時も省スペース。さらに突然雨に降られても運転可能な防水設計となっています。



充電式管理機 (MKR001G)

40Vmaxバッテリーで手軽に耕うん



- ※1 本機に水滴や粉じんが付着した状態で使用することが可能です(当社、社内基準)。
- ※2 水や粉じんによって故障しないことを保証するものではありません。
- ※3 バッテリーを装着した場合は、本体側の保護等級に準じます。
- ※4 エンジン機比。2023年3月現在、当社調べ。
- ※5 スターロータ仕様を選択した場合。

土の中に空気や肥料を取り込むために土を深く掘り起こす「耕うん」、通気性や排水性を高くなるために土を盛り上げる「うね立て」、うねの間の土を柔らかく戻す「中耕」、雑草を取り除く「除草」など、さまざまな作業を可能としたエンジン式同等のハイパワーを実現した充電式管理機です。



MKR001Gの動画がご覧になります。

50mL^{※4}エンジン式クラス同等のハイパワー

高トルクのハイパワーブラシレスモータを搭載しており、エンジン式同等の作業感を実現しています。また、耕うん幅が585mm^{※5}と広いため、一度で広い面積の耕うんが可能です。



耕うん、うね立て、中耕、除草…多彩な機能

アタッチメント(別販売品)を付け替えれば耕うんからうね立て、中耕、除草などさまざまな作業が可能です。充電式は使用時の排ガスがゼロのため、ビニールハウス内でも気兼ねなく使用することができます。



持ち運びが簡単で、水洗い可能

ハンドルを折りたたむため軽自動車にも積み込むことができます。また、ウェットガード^{※1,2}と防水保護等級^{※2,3}により、突然の雨の中での運転やロータ部の水洗いも可能な防水設計となっています。



女性のさらなる活躍を目指して

マキタは年齢、性別、国籍、障がいの有無などにとらわれず、全ての従業員が互いに認め合い、個々の能力を最大限に発揮し、活躍できる企業であることが重要だと考えています。近年は、女性の活躍機会の拡大に向け、女性が働きやすい環境の整備や施策の拡充に取り組んでいます。

当上期には女性のキャリアに関する意識向上を目的に、少人数での女性社員の座談会を実施しました。座談会では社内のロールモデルとなる女性社員に今後のキャリアや、家庭や育児との両立、プライベートの過ごし方などのテーマについて語っていただきました。また、従業員のキャリア意識の形成とモチベーションの向上を狙って、その様子を社内報を通じて周知しました。

参加者からは座談会を通じて、「働き方やキャリアの捉え方について意見交換でき、今後の人生設計の参考になった」「普段関わる機会のない他部署の社員と交流することができ、良い刺激を得た」などの声がありました。

マキタではこれからも、自律的なキャリア形成や自己成長を促すために、意識改革を含めたキャリア支援を行ってまいります。一人ひとりが個性や能力を最大限に発揮でき、企業が持続的に成長していくことを目指して。



実際の社内報誌面

ルーマニア工場 累計生産台数5千万台達成

9月13日、ルーマニア工場において累計生産台数が5千万台に達しました。5千万台達成記念モデルは充電式震動ドライバドリル(HP482D)です。

ルーマニア工場は、2007年4月に生産を開始してから、2021年9月に累計生産台数4千万台を達成するまで着実に生産を積み上げてきました。その後、急激な経済環境の変化に見舞われましたが、その変化に柔軟に対応し全社を挙げてムダ取りとコスト削減に取り組み、このたび5千万台を達成することができました。

今後も欧州の中核工場として、全社一丸となって取り組んでまいります。



マキタ・ブルガリア

会社名

Makita Bulgaria EOOD

設立

2008年2月

本社所在地

ブルガリア ソフィア



ブルガリアにおけるマキタ

ブルガリアの国民性は実直で、マキタの質実剛健の社風によく合っています。広大な土地を活かした農業が盛んな一方、ソフィア等の都市部ではビルの開発も進んでおり、市場には伸びしろがあります。ブルガリアにおける好評な製品は充電式インパクトレンチで、建築・建設現場での使用から農業機械の整備、ソーラー発電所の設営までさまざまな場面で使用されています。

マキタ・ブルガリアは今年で15周年を迎えました。競合他社が近隣諸国に倉庫や修理拠点を構える中、マキタは長年拡充してきた販売・アフターサービス網を活かし、地域密着のサービスを提供することで、引き続き市場との信頼を構築してまいります。

充電式インパクトレンチ (DTW301)を使用したソーラー発電所の設営



養蜂業界の省人化・効率化への貢献

ブルガリアといえばヨーグルトやバラ栽培が有名ですが、養蜂産業も盛んで、高品質なハチミツを国内のみならずヨーロッパ各地に輸出しています。

マキタ・ブルガリアでは養蜂業界への拡販に注力しており、積極的に展示会に参加するなど、同国の養蜂協会や養蜂農家のお客さまと良好な関係を築いてきました。しかし近年、ブルガリアの養蜂産業で人手不足が進んでいます。このような状況下において、充電式運搬車などマキタの充電式園芸用機器は、作業の省人化・効率化に貢献しています。ガソリンを使わないマキタの充電製品は、環境に優しいだけでなく、ハチミツを生産する蜂にも優しく、養蜂農家のお客さまに好評です。



養蜂業界の展示会



充電式運搬車で巣箱を運ぶ様子



充電式エアダスタでハチを巣から退去させる様子

これからのマキタ・ブルガリア

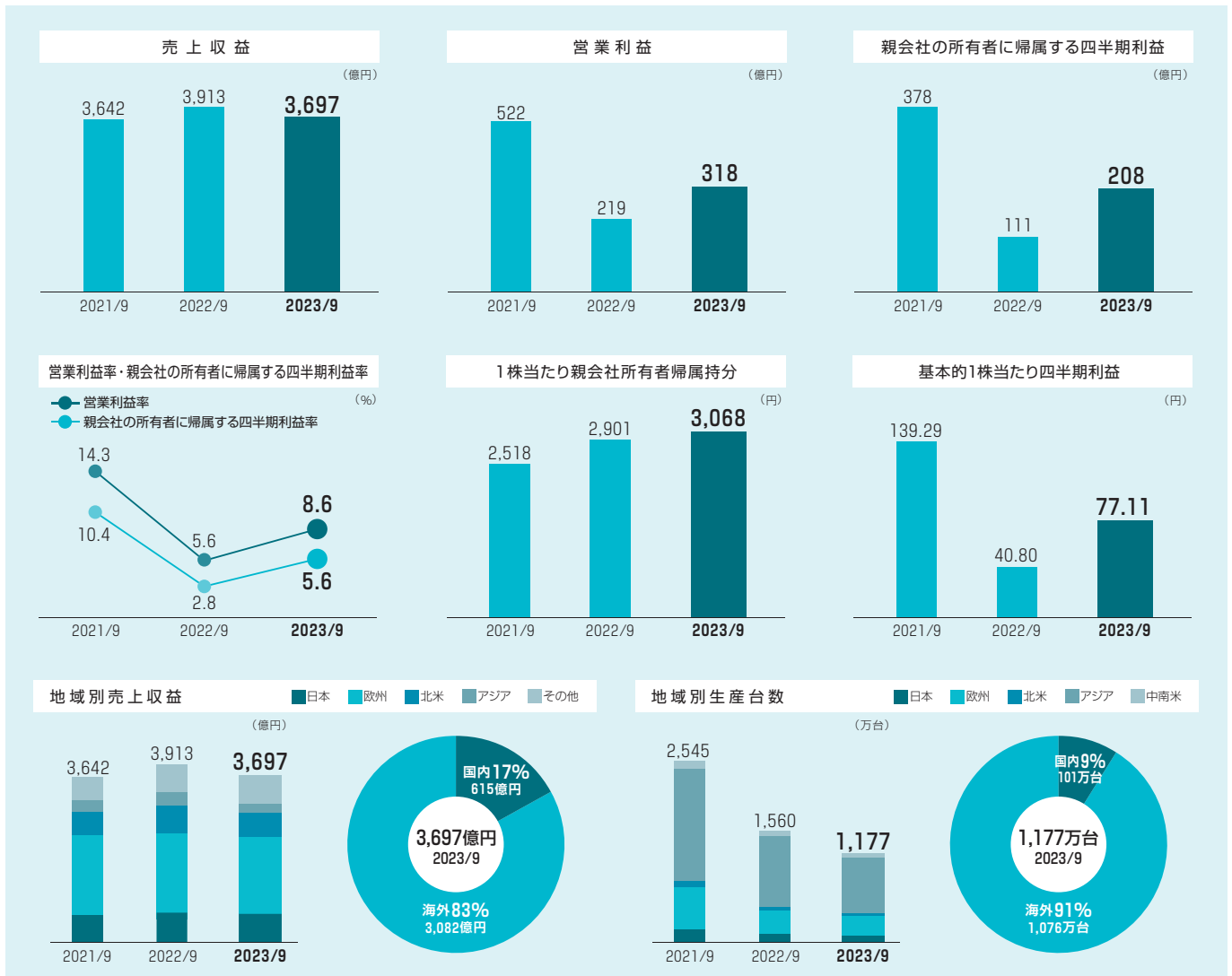
ブルガリアから他のEU加盟国に出稼ぎに行く国民が多く、主要産業において国内の人手不足は喫緊の課題です。準備中のシェンゲン協定への加盟もこの傾向を加速させる可能性があります。そこで、従来のエンジン製品から作業効率が良いコードレスの充電製品へと積極的に置き換えることで、人手不足という社会課題の解決に貢献していきます。

また、ブルガリア山間部や黒海沿岸部は観光資源に恵まれていることから、自然を活かしたリゾート施設も多く、アフターコロナ下で活気を取り戻し始めました。今後成長が期待できる観光産業に対し、マキタの低騒音で取り回しが良い充電式園芸用機器や清掃製品の拡販にも取り組んでまいります。



ホテルの緑地管理で使用される充電式芝刈機

主な経営指標(IFRS)



(単位: 百万円)

	2021年9月中間期	2022年9月中間期	2023年9月中間期	増減率(%)	2023年3月期
売上収益	364,230	391,318	369,667	△5.5	764,702
営業利益	52,160	21,919	31,760	44.9	28,246
営業利益率	14.3%	5.6%	8.6%	—	3.7%
税引前利益	52,600	18,237	30,036	64.7	23,887
親会社の所有者に帰属する四半期利益	37,820	11,078	20,816	87.9	11,705
親会社の所有者に帰属する四半期利益率	10.4%	2.8%	5.6%	—	1.5%
資本合計	689,518	793,952	832,203	4.8	775,699
資産合計	850,842	1,155,694	1,035,051	△10.4	1,099,351
親会社所有者帰属持分比率	80.4%	68.2%	79.7%	—	70.0%
設備投資額	28,158	22,996	11,010	△52.1	39,088
減価償却費	8,127	9,900	12,337	24.6	21,725
研究開発費	6,905	7,515	7,274	△3.2	14,903
従業員数(人)	19,592	19,794	18,019	△9.0	18,804
基本的1株当たり四半期利益(円)	139.29	40.80	77.11	89.0	43.11
1株当たり配当金(円)	10.0	10.0	10.0	—	21.0

(注)上記およびこの報告書に記載している金額は原則として百万円未満を四捨五入して表示しています。

ホームページのご案内

マキタ 検索 <https://www.makita.co.jp/>

当社ホームページでは、業績の推移、決算情報、プレスリリースのほか、決算発表日などの情報をタイムリーに提供しています。

- ▶ 会社概要 <https://www.makita.co.jp/company/>
- ▶ 株主の状況 https://www.makita.co.jp/ir/stock_bond/stock_bond_04.html
- ▶ 株式事務手続きのご案内 https://www.makita.co.jp/ir/stock_bond/stock_bond_05.html